2018/4/23 の「NHK クローズアップ現代＋」ご覧になりましたか？

（4/25 発信）

親愛なる各位

おはようございます。大雨の水曜日ですね。気を付けていってらっしゃい！

「特別の教科　道徳」が始まって2週間、おとといの「NHK クローズアップ現代＋」ご覧になりましたか？

それは杉並区立久我山小学校での道徳科授業を2事例紹介しながら、授業中の子供の具体的な反応から道徳科の問題点をクローズアップするという試みでした。武田真一キャスターと取材スタッフ、それに、コメンテーターは尾木ママでした。

番組で気になったのは「**教える内容**」とか、「**教えること**」などの言葉がやたらと多用されていたことです。「〇〇など22の価値について**教えることになっている**」という言い方でした。各教科等で使われている「教える」と同等の意味で使っていたようでした。

はたして「道徳的価値は教えられるか、それを教えるのが道徳科か？」（公共放送ですから道徳の教科化に伴う一般国民の素朴な不安や疑問などを分かりやすい内容で企画にすることはよいとは思いますが…、大変気になりました。）

道徳の教科化が議論されて5年間、様々な論に対して言い続けてきたことは「道徳の教科化は『道徳の時間』の教科化であって、道徳が『特別の教科』である道徳に（学習指導要領上の位置付けが）変わったからといって、道徳の授業が目指す目的や特質まで変わったわけではない」ということです。

中学年の若い先生の授業は「お母さんの請求書」を教材にしたC[家族愛]の授業でした。その中で先生は、「お母さんはどんな気持ちで 0 円の請求書を書いたと思うか」と発問しました。そこでハプニングが起きました。ある男の子の発言に対して児童たちは一斉に笑ってしまったのです。男の子はとうとう泣きだしてしまいました。

高学年のベテランの先生は「星野君の二塁打」を教材にした C[規則の尊重]についての授業でした。先生は教材研究の段階からこの教材に疑問をもっていました。そして、授業では「君たちならどうするか？」と発問しました。その時、子供たちの表情が一変しました。そして、いろんな意見が出てきましたが、それでよかったのでしょうか？

いずれにしても、道徳科に対する国民の様々な疑問や心配を払拭し、道徳科に信頼と期待を寄せていただくには、学校が道徳科の目標を実現する授業を行うことしか道はありません。

教師の指導力の向上を図ることが最優先に取り組むべき課題です。間違っても、「道徳科に違和感がある」とか「納得できない」とか、そんなことを教師や学校が言っている場合ではありません。授業で見せる子供の学習活動に真摯に学び、誠実に授業改善を行っていくことだけだと思います。

後藤　忠

すると、親愛なる各位からたくさんの返信が届きました。

（文責：後藤忠）

A 氏

私も前半は見ました。後半はNHKのネットで内容を確認しました。

丁寧に準備をして授業に臨むというところは好意的でしたが、 NHKの作成意図は現場も子どもも教科化に戸惑っているという批判的な立場からだと思いました。「国が決めた価値を教える」でよいのかという投げかけで、いかにもNHK的です。

途中で男の子が涙をこぼしたのは偶然とはいえ、NHKにとっては美味しい映像だったと思います。

教育の専門家としてなぜ尾木直樹さんを重用するのでしょうか、 NHKが真正面から取り上げたことは評価しますが、視聴者の道徳科への理解が深まったでしょうか、久我山小の校長はどういう取り上げ方になるか承知の上で取材を引き受けたのでしょうか　など職場でも話題になりました。

B 氏

NHK「クロ現＋」の「道徳特集」を私も視聴しました。尾木さんのずれたコメントに憤りを感じ、飲んで寝ました。

マスメディアが正面から道徳科を取り上げてくれたと喜んでいたのですが、コメンテータが道徳科に批判的では公共放送としていかがなものかと感じました。教員養成系大学にも道徳に批判的な教授が居ることも承知しておりますが、テレビ放送では不適切だと思います。

久我山小学校の取組みにおいて、とても素敵な議論の場面（教師同士の議論）が放映されたことや、アナウンサー・記者の素朴な疑問はいい番組構成をしてくれたなぁと思います。

残念だったことは、①やたら「教える」を連発・強調したこと。②道徳的価値の理解だけを強調したこと。③評価について学習指導要領解説に示されていることに触れていないこと。④道徳科の目標が構造的に説明されなかったこと。⑤道徳教育と道徳科が整理されないまま放映されたこと、などです。

それにしても、尾木さんの無責任なコメントは許しがたいですね。

C 氏

私も見ました。そして、「唖然」でした。

授業での先生方の児童理解はよかったのですが、あのコメントの内容は教育現場のみならず世の中の方々の反対や不安を煽るものでした。特に、取材記者（？）の発言に戦前の修身の復活のような言葉があり、昭和33年以来、道徳には地道な実践があったことすら理解していないような内容で、あまりの認識のなさに愕然としました。

指導要領を理解していない番組づくりは無責任でおかしいと思います。

D 氏

NHK　クローズアップ現代＋「道徳が正式な教科に！密着・迷いと涙の教室」

「星野くんの二塁打」 規則の尊重の授業

監督の指示は「バント」だが、星野くんは得意のコースだったので、積極的に打って出て、結果は二塁打、試合にも勝利したが、監督にしかられる。

「もし、自分が星野くんだったら」（児童に考えさせる）

・監督の指示に従う。ルールは守るべき。

・自分の得意なコースにきたら、打つと思う。

・規則は大切だけど、いつも守らなくてよいと良いと思う。地震の時に先生の言われたとおりしていたら、命をなくすこともある。自分で判断することも大切。

（指導した先生は）

「規則も大切、自分の判断も大切」とまとめる

○これでよいのか？

・ねらいとする価値＜規則の尊重　5，6学年＞

（内容項目）「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り，自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」

（解説）「指導に当たっては，社会生活を送る上で必要であるきまりや，国会が定めるきまりである法（法律）などを進んで守り従うという遵法の精神をもつところまで高めていく必要がある。」

○「規則も大切、自分の判断も大切」だけれど、「では、なぜ規則はあるのか」「なぜ規則が必要なのか」を考えさせないといけないと私は思います。

○道徳が教科化されたことで、授業では「一つの教材で一つの内容項目」を教え込むとまでは言いませんが、一つの内容項目にどうやって「収束」させるかを考える先生方が多くなったように思います。

○そのような先生方に、「考え，議論し」、「多面的・多角的に考えて」話し合った後に、ねらいに向かってどのように授業を展開していけばよいかの指導・助言に悩むところです。

E氏

「教える」という言い方によって生じる一般の人の受け止めについては、各教科を含め学習指導要領は「第 1 目標」に続いて、「第 2 内容」となっているので、内容を「指導内容」、すなわち指導すること、つまり「教えること」ととらえているのは当然と思います。武田アナも尾木ママも「素人」ですから。監修の人が、道徳教育や道徳科について理解が浅かったのだと思います。都小道、全小道、道徳の研究家及び実践家がもっと存在感を示し、NHKなどから番組作りに助言を求められたり、取材を受けたりするようになってほしいです。

そういえば、読売新聞（2018 年 4 月 22 日）の投書欄に、「学校の保護者会で先生から『外国語科と道徳科が新しくできて、授業時数が増えた』と説明を受けた。外国語はともかく、道徳を学校で教える必要があるか。道徳は家庭のしつけや学校の学習以外の活動で身についていくものと私は思う。」とありました。学校の説明

に…？です。

なお、若い先生に対しては、「発問にはいくつかの機能（働き）があるから、それと関連付けて、この場合は・・・・・と発問すると効果的である」と具体的に指導することが必要だと思います。

ベテランの先生の教材「星野君の二塁打」に関して、「週刊朝日」2018 年 4 月 20 日号（pp249~251）「道徳教育で混乱する教育現場」でも取り上げられていました。いずれにしても、この教材は好ましくありません。私は少年野球を指導していた経験から、授業では児童にいろいろ考えを交換させ、それぞれが「星野君の2塁打」を理解し、考えを持たせた後で、自分流に書き改めた教材文の（伏せておいた）結びの場面を示しました。

「監督は『よく打った。すごいぞ！』と星野君をほめました。そして小さな声で、『でも、バントを成功させて確実に点を取ることも大事だよ。』と言いました。」

野球は、プロ野球でも高校野球でも、監督やコーチの指示が「上位下達」で進められる、いわば専制君主あるいは軍隊のような特徴を持つスポーツだから、指示に従うことが大事になります。指示を「ルール」や「規則・きまり」と置き換えることは間違いです。戦略・作戦・戦法というべきです。ところが、バスケットやサッカー、バレーボールなどは、監督やコーチの指示は出るが、ボールは意外性のある動きをするし、相手方の選手は想定外の動きをすることから「選手がその時の状況に応じて判断して動くこと」がむしろ求められます。したがって、「星野君の 2 塁打」のようなことは起こり得ないのです。これは、野球を素材にしたことに無理があるのです。「ルール、規則・決まり」の必要性や守ることの大事さはもっと別の場面で考えさせるべきなのです。

ところで、私も取材を受けて、あまりにも自分の主張が曲げて取り上げられており、取材元に対して抗議したことがあります。

＜その1＞正岡子規のことについてある新聞から取材を受けましたが、私のコメントの一部だけ掲載させたために意図と全く逆の言い分になり、読者から批判を受けました。その旨、抗議をしたところその返事は「構文の不手際でご迷惑をかけ申し訳ありませんでした」というものでした。

＜その2＞校長の時、有名なH氏の母校として、あるTVから取材を受けました。放映されたものは99%カットされ、校舎に朝日が差し込むシーンだけでした。

＜その3＞ある新聞の取材を受けたとき、実際の記事は、学校の教員が悪者のようにとられるようなものになっていました。抗議したら、苦情担当者から「私もそう思います。この旨を担当者に伝えます」という簡潔なものでした。

教訓としては、真実と誤解、真実を伝えることは難しいということです。多分、この度の取材を受けた関係者は「ちょっと違うぞ・・・」と思っているのではないでしょうか？

F 氏

見ました。授業に誠実に向き合う教師集団の姿に現場の誠実さ、真摯な態度がよく表れていました。どこかの官庁や役職に胡坐をかく誰かとは違います。

さて、私が最近思うことは、目の前に異文化で育った子どもや宗教が異なる子どもがいたときに、道徳の授業はどうなるかということです。よりよく生きることを求めていく中には普遍的なものがあるはずですが、その前に、その国の中で安心して暮らせるため（その人にとっての安心や安定）にそれまでの文化や伝統、ものの考え方を維持していくことも求められるはずです。「価値を落とし込んでいく」という言葉が、番組の中で教師から何度か出ました。このことこそ、道徳科をどう理解して、道徳科で追求していくことは何かを考え続けるポイント（出発点）になると思っています。やりたいこととやらねばならないことのはざまでもがいています。

G 氏

おはようございます。その番組は見逃しましたが、先生の解説で概ね内容をつかむことができました。

偏向報道を得意とするNHKにしてはまともかなと思いました。前川前事務次官の愛知での「出前授業」を調査した文科省を教育への不当な介入と報道する機関ですから、今回の道徳科報道はまともな方でしょう。

H 氏

「星野くんの二塁打」については小教研でも話し合ったのですが、本当に「野球そのもの」を知っている先生と子どもが少なくなり、教材としての適性がなくなってしまったと感じました。（自分は扱うのが好きでしたが）

野球を知らない先生が野球を知らない子どもたちを教えている時代、ベイスターズの熱狂的ファンとしては

さびしく感じます…。

I 氏

クローズアップ現代＋、見逃してしまいました。社内でも話題にしている者がいました。ネット動画で見られるかもしれませんので確認してみたいと思っています。

全く先生のおっしゃる通りだと思います。クローズアップ現代ではありませんが、いわゆる「普通の」教員が道徳科の特質を理解していないで行った授業事例などを見聞きし、そのたびに残念な気持ちになります。また、新聞・TVなどの大手メディアの道徳に対する不見識な記事も散見され……。

私もまだまだ勉強中でございます。またご教示ください。

J 氏

授業風景を見ながら、一生懸命考えて発言した男の子に拍手して見ていました。私だったら、彼の発言は素直な反応だと思いましたから大いに誉めてあげたいと思いました。みんなの前で頑張って自分の考えを発表したことに心が動きました。

子どもたちが彼の発言のあと笑ったのは、あれはいけません。私は道徳の最初の授業で、認めないことの一つとして指導します。だって彼は一生懸命考えて、思いを発表したのですから。軽薄な受けねらいとは明らかに違っていました。自由に言える雰囲気がない学級では本心から価値に迫る話し合いはできないと思います。

担任はその子の家庭がどんな家庭かを分かっているのは当たり前のことです。だからと言って、それが彼の発言のもとになってるように報道したことに私は大きな疑問を感じました。ちゃんとご家庭に放映の承諾をいただいているのでしょうか？

子供の発言はその子の経験に根ざしてしかできません。だから子供は教材に出てくる「たかし」の仮面を被って自分のこととして発言するのだと思っています。そこで、「みんなも笑うんじゃなくて、そんなこともお母さんは考えたかもしれないね」って受け止めてやることが大切だと指導するのだと思います。

私の授業では、「私がたかしのお母さんだったら『私はこんなにあなたのことを思ってやっているのに、どうして請求書なんか持ってきたの？』と言い返してしまうと思うけど、この男の子のお母さんはそんなことは言わないで0円の請求書とお金を渡したんだよね。この子のお母さんはどんなことを考えて0円の請求書とお金を渡したのだと思いますか？」と発問しました。そうしたら、建前かもしれませんが、「私はお母さんが楽をしたくて、私にいろいろやらせていると思っていたけど、本当は何でもできるようになってねと思っているのだと思います。」という発言がありました。

もうお一人の先生の「星野くんの二塁打」の授業も、私だったらあんな発問はしないと思いました。「考え、議論する」にとらわれ過ぎて、道徳の授業の目的を見失っているのではないでしょうか？

道徳の指導過程には「こうすればよい」という一定の解はないのですよね。子どもたちと担任の関係もありますし、実態も異なるので、だから指導方法は一つに決められない。他教科の指導のように指導書通りにはいきません。どうしたらいいのか…。

K 氏

あらためて道徳の基礎基本をしっかり学ぶ大切さをつくづく思いました。

尾木ママが道徳をよく勉強していないで発言をしていたことが何だか不思議でした。せっかく話していただくなら、道徳をしっかり勉強している方をお呼びするべきです。NHK が笑われます。

あの男の子が泣いてしまったのは教科化になったからではなく、授業の進め方に問題があったからだと思いました。また、クラスの雰囲気が気になりました。でも、担任の先生が悪いとは言いません。道徳の特質や道徳について学ぶ機会や環境がなかったのかもしれません。

ネットも見ましたが、これではあの若い先生、心を病んでしまいます。真面目に真摯に取り組んでいたあの若い先生がこんなにネットで叩かれて…可哀想です。

それよりも私は、番組が「家族愛」という難しい問題を取り上げ、泣いた子供をクローズアップして構成した NHK の報道姿勢に問題があると思います。「子供をダシにして語る」一番やってはいけないことです。

また、無神経に子供の個人情報を公共放送に乗せて大っぴらに晒しました、共稼ぎであるとか家族の状況とかまで…。（私も共稼ぎです。このように報道され、子供が泣いていたら、私は黙っていられません。）

その子は、自分の発言や行動がこんな大きな問題になってしまったことをどう思っているのでしょう？まだ四年生なら 10 才になったかならないかです。どんなに嫌な思いをしたかしれません。子供も先生も嫌な思い

をし、道徳が大嫌いになってしまうのではないかと心配しています。多くの保護者も道徳に対してすごく不安になったと思います。

教師はみんな迷いながら、悩みながら道徳を進めています。私だって何年やっても悩みは尽きません。それは心の問題だからです。そして、人は本音と建前を大人になればなるほど忖度し、使い分けて生きていきます。子供に正直であれと言いつつ、自分には正直でないところがたくさんあることを知っています。分かっていてもできない自分のことも分かっている、それでいいのではないかと思うのです。そんな中で、よりよく生きていきたいと願うのが人間らしさというものではないでしょうか。

私が道徳を好きなのは、人の心を考える学習が好きだからです。感動したら人に伝えたい、人の心も知りたい、そんな時間でありたいという思いがあるからです。

L 氏

クロ現「道徳」視聴しました。意図、構成、弁士、いかにも…という感想です。

ただし、専門家の見方はえてして鋭利過ぎ、「寄らば斬るぞ！」のきらいがあるのでは？

久我山小の授業は、教師も子どももモデルとして（現状の授業の）標準は超えているのではないでしょうか。

「教科」としての道徳の展開はまさにこれからと考えます。専門の皆さんには、「普通の教師」や「子ども第一の保護者」が納得できる「ほめて伸ばす分かり易い先導」を期待したいと思います。

（NHKは玉虫色にならざるを得ず、承知のうえで制作しているという見方もあります。）

M 氏

道徳がテレビに取り上げられたことはよかったと思いますが、解説者には道徳を専門とする方（正しく道徳指導を理解されている方）が出演されるか、事前に番組への助言を求められるかすればよかったと思います。

涙した子供は一生懸命、自分の家庭、親を見つめ、考えていました。真面目に発言していました。

恥ずかしい思いをさせてしまって…、悲しむ姿、涙を見て胸が痛みました。家族愛や生命の尊さ等の価値の指導は特に慎重に扱いたいものです。

若い男性の先生の言葉が心に残りました。「授業で扱う価値（内容項目）についての考えを教師自身がよく考えられなくて…」と悩む姿に、本来の教師のあるべき姿を感じました。教師自身が価値について深く哲学する、価値についてとことん考える、それは大変難しいことですが大変大切なことだと思います。

「教える」という言葉が頻繁に言われていますが、もっと難しく、もっと必要なことは「育む」ということだではないでしょうか。

以上 2018.5.6 現在